

今年四月、主要七か國外相會合に於いて「廣島宣言」なる文書採擇せられたり。其の翌日、突如古巣の新聞社の外務省の所謂霞クラブ擔當記者より、翻譯者として宣言文のある部分の譯文を如何に思ふかの問合せあり。

過去四十年、英譯の仕事こなして來たる専門家としての意見聞きたしとの由。外相會合故、當然原文は英文にて、メディア等に掲載せられたる文章はその邦譯なり。確かに原文を翻譯せられたる文章とは必ずしも正確とは言ひ難し。問題になりたる箇所は原爆投下により廣島と長崎の人々は「非人間的苦難といふ結末を経験し」とある部分なり。原文は非人間的とは明記せられてはをらず。しかれども、人間的苦難の前に「甚大なる壊滅」といふ強き言葉ありて、完全に不正確と言ふを得ず。

伊勢志摩に於て當時開催豫定の主要七か國首腦會合の後、オバマ大統領の廣島訪問を要望する安倍政権としては、その宣言文によりて米國の國民感情を逆なでするを避けたしとの、苦肉の策とみたり。吾はこの翻譯は誤譯と言ふは非ず、最大限許容せらるる範圍の意譯なりと覺ゆと、擔當記者に説明す。

翌日、さる知己の大學教授より我意見に四の五の言ふファクス届き、初めて紙面に掲載せられし事を知る。外務省の譯文と並列せられたる吾の意見の大きな記事に仰天し、何とも居心地悪しき事このうへなく、擔當記者に「かかる大きな記事にあらば、なほ色々言ひたき事あり」と文句を呈す。父存命ならばこの記事に對し、何と覺えしかと、考へ込むなり。

(平成二十八年九月二十六日受附)